

當代

皇御孫命

〔和訓栞中編十三〕たうぎん、當今とかけり、當代の今上を申奉る辭なり、和語なるべし、

〔源氏物語明石三〕たうだいののみこは、中ふたつになり給へばいといはけなし、

〔源氏物語冷標四〕たうだいのかく位にかなひ給ぬる事を、思ひのごとうれしとおぼす、

〔續世繼男三〕保延五年にや侍りけん、中たうだいの崇の御子になし奉り給事いできて、みな月の廿六日、皇子衛内へ入らせ給、

〔令義解儀六制〕凡自天子至車駕、中皆是書記所用、至風俗所稱、別不依文字、假如皇御孫命、中之類也、

〔日本書紀二代〕欲立皇孫天津彦彦火瓊瓊杵尊、以爲葦原中國之主、

〔古事記傳十五〕皇御孫命とは、此尊を始め、後の御世御世の、天皇をも申奉る稱なり、

〔延喜式八祝詞〕祈年祭

集侍神主祝部等諸聞食、宣、中御年皇神能前、爾白馬白猪白鷄種々色物、平備奉氏、皇御孫命能

宇豆乃幣帛乎、稱辭竟奉登久宣、

〔延喜式八祝詞〕六月晦大祓、十二月准之

集侍親王諸王諸臣百官人等諸聞食、止宣、中如此所聞食波、皇御孫之命、乃朝廷、平始氏、天下四方

國爾罪止云布罪波不在止、略

〔日本書紀九神功〕九年、仲十二月辛亥、略一云、足仲彥天皇、仲居筑紫檀日宮、是有神、託沙麼縣主

祖、内避高國、避高松屋種、以誨天皇曰、御孫尊也、若欲得寶國耶、將現授之、略下

〔續日本紀十五〕天平十五年五月癸卯、宴群臣於内裏、皇太子、孝親、憐、五節、略中御製歌曰、略中阿麻

豆可未美麻乃彌己止乃、爾誤登理母知氏、許能等與美岐遠伊寸、末誤多氏末都流、

〔古事記上〕爾豐玉毘賣命思奇、出見乃見感目合、而白其父、見神津曰、吾門有麗人、出見尊、爾海神自出